

神話「天岩戸開き」

(隠れている天照大神を誘い出す神話)

(要旨)

日本の代表的な神話の中に、日の神の天照大神が洞窟の中に隠れてしまい、そのため世の中が闇に閉ざされていました。天照大神を洞窟から誘い出ために、八百万の神々が集まり、相談して計画を練ります。神々は、洞窟の外に歌と踊りではやし立てます。天照大神は、世の中は闇なのに楽しそうに騒いでいるのを不思議に思い、扉を少し開けて外をのぞき、その間に、神々は、岩の扉をこじ開けそれを投げ飛ばします。こうして高天原にも地上界にもふたたび日の光が戻りました。

天照大神が隠れたとされる洞窟「天の岩屋戸」は高千穂の天岩戸神社にあり、そこに天照大神は祀られています。また天安河原は、八百万の神々が集まり神議されたと信じられているところです。

=====

海原の国の神、素戔鳴尊

伊弉諾尊が黄泉の国から戻った後、3柱の神が生まれました。日の神天照大神、月の神月読命、海原の神素戔鳴尊の3柱です。天照大神には高天原を、月読命には夜の国を、そして素戔鳴尊には海原の国を治めるようにそれぞれ授けました。

兄弟の中で、素戔鳴尊だけは海原の国を治めず、やがて国から追放されてしまいました。素戔鳴尊は、去る前に姉の天照大神に話に行きました。天照大神は素戔鳴尊が来るのは、善良な心からではないだろうと疑いを持ちました。2柱は、意見が合わず、素戔鳴尊は次々と乱暴をはたらきました。天照大神の田の畔を壊し、神殿を汚しました。さらには、素戔鳴尊は馬の皮を剥ぎ、それを天照大神の神聖な機屋に投げ込んだのです。機織りの娘は、これを見て驚き死んでしまいます。これを知った天照大神は、恐れと悲しみのため洞窟の中に閉じこもってしまいました。天照大神は高天原の太陽の神であったので、全世界は、闇と混沌に包まれてしまいました。

天の岩戸の神話

艱難辛苦の末、八百万の神々が天安河原に集い天照大神を誘い出す相談を交わしました。まず、夜明けと共に鳴く雄鶏を集め、鳴かせてみました。次に、宝石の勾玉を繫げ、天の香具山から採ってきた材料で大きな鏡や白い布帛（ふはく）、青い布帛を櫛に飾り、洞窟の前に取り付けました。そして、天児屋根命が唄い始め、天鈿女命が華やかな舞を披露すると、その周りに集まった八百万の神々は喜び、大声で笑い出しました。

光を取り戻す

外の大騒ぎを聞いて、天照大神は不思議に思いました。洞窟の岩戸をほんの少しだけ開けて覗き、おっしゃいました。「私がここにこもっているのに、高天原も地上界も暗黒であろうと思うのに、どうして皆笑っているのだろうか。」天鈿女命は「あなた様にもまさる尊い神がおいでになりますので、喜び笑って、歌舞しております。」と答えました。天照大神はこの策戦に反応し、不思議に思い、この尊い神が誰であるのかを見るために、岩戸をもう少し開けました。するとその姿が鏡に映り天照大神はちらりと見ました。洞窟の入り口のそばに隠れていた手力男命は、戸をつかむとそれを投げ飛ばしました。こうして、天照大神が岩天の屋戸から出てこられたので、高天原も地上界も太陽が照り、明るくなりました。

日の神の天照大神は天岩戸神社に祀られています。天照大神が隠れていたとされる天岩屋戸は、西本宮から拝覧することができます。西本宮から少し道に歩き、八百万の神々が集い神議されたと伝えられる天安河原の洞窟へもつながっています。現在は、ここを訪ねた多くの人が願いを込めながら、この河原に石を積み上げていくため、洞窟とその周辺では、積み石が見渡す限りに広がっています。